

論文 / 著書情報  
Article / Book Information

題目(和文)	RNA ポリメラーゼII転写産物の3'末端プロセッシング経路の運命決定機構に関する研究
Title(English)	
著者(和文)	山本淳一
Author(English)	Junichi Yamamoto
出典(和文)	学位:博士(理学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第9610号, 授与年月日:2014年9月25日, 学位の種別:課程博士, 審査員:山口 雄輝,工藤 明,徳永 万喜洋,十川 久美子,立花 和則
Citation(English)	Degree:Doctor (Science), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第9610号, Conferred date:2014/9/25, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	要約
Type(English)	Outline

# RNA ポリメラーゼ II 転写産物の 3' 末端プロセッシング経路の 運命決定機構に関する研究

発表者氏名 指導教員名  
山本 淳一 山口 雄輝

高等真核生物において、RNA ポリメラーゼ II (Pol II) によって転写される遺伝子には 3 種類の 3'末端プロセッシング経路が存在する。ほとんど全てのタンパク質をコードする遺伝子の 3'末端プロセッシング反応は、ポリ (A) 付加配列と下流の G/U rich 配列に基づき、pre-mRNA の 3'末端の切断とそれに続いたポリ (A) 付加という 2 つの反応により形成される。一方で、Pol II により転写される遺伝子の中でヒストン遺伝子と snRNA 遺伝子は、例外的にポリ (A) 付加を伴わない 3'末端プロセッシングを受けることが知られている。これらは共にイントロンを持たない短い遺伝子であり、その 3'領域にヒストン遺伝子はステムループ配列と purine-rich histone downstream element (HDE)、snRNA は 3'box という遺伝子特異的なシスエレメントを持ち、それぞれの遺伝子特異的なプロセッシング装置により 3'末端プロセッシングを受ける。

DSIF と NELF は promoter-proximal pausing という転写開始点近傍における Pol II の一時停止を引き起こす転写伸長因子である。近年のゲノムワイドの研究によると、promoter-proximal pausing は非常に多くの遺伝子で観察され、普遍的な転写制御過程であることが強く示唆されている。また、NELF のゲノム上での分布は遺伝子の 5'領域に局在しており、この結果は promoter-proximal pausing という NELF の機能とよく一致していると考えられている。しかし、近年の我々や他のグループの報告から、NELF は一部の遺伝子においては 3'領域にも存在し、3'末端プロセッシング反応や転写終結にも関与することが明らかになりつつある。一例として、私を含む研究グループはヒストン遺伝子において NELF が 3'領域にも存在し、ヒストン特異的な 3'末端プロセッシング反応に関与していることを報告している。そして本研究によって、もう一方のポリ (A) 付加を伴わない 3'末端プロセッシング経路である snRNA 遺伝子の 3'末端プロセッシング反応にも、NELF が関与することが明らかになり、その分子メカニズムの一端が解明された。

本研究では DSIF と NELF の細胞内機能の解明を目的とした相互作用因子の網羅的探索により、DSIF と NELF の共通の相互作用因子として、Integrator を同定

した。IntegratorはPol IIのC-terminal domain (CTD)に結合し、3'boxに依存したsnRNAの遺伝子特異的な3'末端プロセッシング反応に必要な因子として2005年に初めて報告された複合体である。さらに、NELFのノックダウンはIntegratorのノックダウンと同様に、snRNAの3'末端プロセッシング反応の阻害を引き起こすことを明らかにした。一方で、DSIFのノックダウンはsnRNAの発現レベルの低下を引き起こしたことから、DSIFはsnRNAの転写そのものに関与していることが示唆された。これらの結果から、DSIFとNELFは共にIntegratorと相互作用するものの、snRNA遺伝子上でDSIFは転写、NELFは3'末端プロセッシングとそれぞれ異なった機能を担っていることが示唆された。次に、DSIFとNELFのsnRNA遺伝子における機能をより詳細に解析するために、クロマチン免疫沈降法(ChIP)によってU1 snRNA遺伝子上での各因子の分布を解析した。その結果、snRNA遺伝子においてもNELFが3'領域にも存在していること、NELFのノックダウンにより転写終結も阻害されることが明らかになった。さらに、NELFがsnRNAの3'末端プロセッシング反応を制御する分子メカニズムの解明を目指し、NELFのノックダウンによって生じた未切断のU1 snRNAの3'末端の構造をRLM-RACEによって詳細に解析した。その結果、NELFのノックダウンによって、本来はポリ(A)付加を受けないU1 snRNAが異常なポリ(A)付加を受けていることが明らかになった。この結果から、NELFはsnRNA遺伝子上で、本来は選択されないポリ(A)付加を伴う経路を抑制することでsnRNAの遺伝子特異的な3'末端プロセッシング経路へPol IIを誘導しているのではないかと考えた。この仮説を検証するために、一般的なタンパク質をコードする遺伝子の3'末端プロセッシング装置であるCPSFやCstFのU1 snRNA遺伝子へのリクルートにNELFが与える影響をChIPにより解析した。その結果、NELFのノックダウンによってsnRNA遺伝子では本来リクルートされないと考えられるCstFが遺伝子の下流で増加していることが示唆された。

これまでPol IIが3種類の3'末端プロセッシング経路の中で、どの経路を選択するかという運命決定は、ヒストン遺伝子とsnRNA遺伝子がいずれも3'領域に遺伝子特異的なシスエレメントを持つため、単純にDNA配列とそれを認識する因子の違いで説明されると考えられてきた。しかし、本研究と私を含む研究グループが報告した先行研究から、NELFという普遍的な転写因子が3'末端プロセッシング経路選択の「運命決定因子」として働き、ヒストン遺伝子やsnRNA遺伝子において、ポリ(A)付加を伴う3'末端プロセッシング反応を抑制し、遺伝子特異

的な 3'末端プロセッシング経路へ誘導していることが示唆された。